

我が家の家庭教育

五之神 鈴木 さと子

我が家では、今春九十三歳を迎える祖父を何よりの誇りに、両親と私達夫婦と子供、四世代の八人家族です。研修生やパートの出入りも多くあり、大変に明るく、騒々しいまでに快活で、何と云っても賑な家庭です。

その主は子供で、小学校へ入ったばかりの腕白小僧。一つ違いでも面倒見のよいお姉ちゃん。二人はまだまだ幼く、自

分自身について客観的に評価する気持ちは強くありません。自信や劣等感は多少抱いているようですが、あまり深刻ではありません。

学校から戻ると勉強は二の次、三の次で先ず遊びが優先。カバンを降ろすより早くお友達が集まり、我が家のせまい庭が遊び場です。時には、十人程もおり、夕日が西にかたむいても、ころぶようになつて駆け回り家へ帰るのを忘れていたり、打った野球のボールが窓ガラスを突き破る事も、思いもかけず怪我までしてしまう事もあり、肝をひやしてしまいました。

何かのCMですが「腕白でもいい、たくましく育つて欲しい」子供の事。幸い

私には妹も居り、大家族の我が家には大きな戦力となっております。日々繁忙の中心を休めてまではなかなか難しいのですが、普段良いおこないは誉め、悪いおこないは戒める事を大切な心がけとし、他人の子供も我が子のように思いやる心と発達段階に即したポリシーを持ち、子供の健全な成長を願いつつ、何かひとつ子供から尊敬されるようにありたいと思うこの頃です。

お年寄りとの触れ合いのなかには「人類の宝」が一杯です。深い生命の泉から「愛」と「美」があふれ出ています。我が家の子供達は、そんな祖父が大好きです。

ひかりまちの風土記 ②



石芋伝説

傍示戸

昔むかし、今の傍示戸のあたりに、里芋を家族そろって食べている家がありました。

ちようどそこへ身なりの汚いお坊さんが訪れ、あわれみをおぼせました。

の家族はだれ一人として、そのお坊さんに里芋を分けてやりませんでした。お坊さんは持っていたお碗をそばの池に投げ込み杉の箸を池畔に立てると、力なくどこかへ行つてしまいました。するとどうしたことか、今まで食べていた里芋がみんな石になり、食べられなくなつてしまいました。

村人は、あの時のお坊さんはきつと弘法大師様に違いないと思ひ、小さなお堂を建てて、石芋大師と呼び、とても大切にしました。今でも地元の人たちはこのお堂を大切にしています。

栗山川浄化啓発 作品コンクール結果



栗山川汚染防止対策協議会が主催した第八回栗山川浄化啓発作品コンクールに、当町の各小・中学校からも多くの作品が出品され、優秀な成績を収めました。

- 栗山川汚染防止対策協議会が主催した第八回栗山川浄化啓発作品コンクールに、当町の各小・中学校からも多くの作品が出品され、優秀な成績を収めました。
- 標語の部(小学生) 敬称略
- 優秀 石原貴子(東陽小六年)
- 「いつまでも 暮らしに活きる 町の川」
- 優良 林史和(白浜小六年)
- 「栗山川を きれいにするのは あなたらしい」
- (中学生)
- 優秀 伊藤京子(三年)
- 「この川を 生きてる川に 戻すんだ」
- 優良 林敏志(二年)
- 「受けつごう 新たな世代へ 栗山川」
- 優良 鈴木貴子(一年)
- 「本当の川 見たいと思いませんか」
- ポスターの部(小学生)
- 最優秀 越川敬子(東小四年)
- 優秀 松田和美(東小一年)
- 優良 石原貴子(東小六年)
- 田中 修(東小六年)
- 林一三(東小六年)
- 鶴ノ澤典子(小六年)
- 鈴木佐和子(白小六年)
- 大木由紀子(日小六年)
- 川野正和(日小四年)
- 行方友之(日小三年)
- 野村祐一(南小六年)
- 秀島幸江(南小六年)
- (中学生)
- 優良 鈴木扶美(一年)
- 小川 真理(三年)
- 優良 椎名泰子(三年)
- 長妻 暁子(一年)
- 人見彰太郎(二年)
- 布施 睦(一年)

栗山川は 最優秀 越川敬子さんの作品

私たちのために